

エンジェルスカイン

第二部「ミレニアム迫る」
第二部「プレストロイカ」



Direction: OGURA Toshimitsu Photo: FUJIKI Miho

6月3日[土] 第一部 11:30 第二部 17:00

穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホールにて上演 チケット好評販売中!
問合せ●プラットチケットセンター 0532-39-3090 (10:00~19:00休館日除く)



▲公演情報

ピュリッツァー賞やトニー賞など数々の賞に輝く『エンジェルスカイン・アメリカ』二部作(1991・92年初演が、上村聡史の演出により一挙上演される。同作は、ステイブ・スピルバーグ監督の骨太な映画脚本でも知られるトニー・クシュナー(ちなみに最新作『エイブルマンズ』の脚本もスピルバーグとクシュナーによる共同執筆)による初期の傑作戯曲。この大作に挑むのは、オーディションで役を勝ち取った8人の俳優たちだ。今回は鈴木杏(ハーパー)、那須佐代子(ハンナ)、水夏希(天使)に、この作品の魅力を語っていただいた。

インタビュアー◎川添史子(演劇ライター)

社会的なテーマを語りつつ ユーモアが散りばめられた舞台 八時間でも体感はあるという間

那須 ハーパーは幻想の中で南極にも行っちゃうし(笑)。本当に自由な戯曲ですよ。

鈴木 限界を軽やかに突破するような、演劇的魅力にあふれていますよね。全ての登場人物が生きていることに真摯で、必死に自分のエンジンを回しながら、がむしゃらに生きているところがステキで。

水 人間は誰もさまざまな欲望を持っている動物だと思えますし、「こうした葛藤、私の中にもあるなあ」と、自分が出ていない場面でも共感するシーン、好きな台詞が、稽古するたびに増えていきます。

那須 誰も肯定しないし否定もしない……どんな人間も絶対に責めない劇作家の視点が貫かれていますよね。これを一言で言っちゃおうと「多様性」になっちゃうのかもしれませんが、生の舞台で豊かに見えてくる仕組みになっていますし。

鈴木 人間の描き方、見方が、とってもフェアな感じですよね。

那須 しかも随所にユーモアのセンスが散りばめられていて、社会的な深いテーマを語りながらも、全く説教くさく感じさせないのも素晴らしいセンス。

水 あらすじだけ読んだら、こんなに笑いがあがる舞台だとは思わないでしょうね。

鈴木 ところでこの作品って、どこまで左脳的な理屈で詰めて、どこまで右脳的な感覚で演じればいいのか、悩むところがありませんか？

お客さまにイメージを膨らませていただくためには、両方のバランスをうまく取る演技が必要とされている気がします。

那須 すごくわかります。宗教や社会的な背景などさまざまな要素が描きこまれていますが、それを理屈っぽく提示する芝居じゃないですからね。

鈴木 だから、「アメリカ社会の知識がないと難しいかな？」と躊躇されている方には声を大にして「とにかく八時間観劇する気力だけでOK」とお伝えしたいです(笑)。

那須 稽古していても、体感としてはあつという間です。短いシーンが連続していく構造になっていて、各場面に必ず、次に興味がつながついていく要素が入っているから一瞬たりとも停滞しないんですよ。でも場面数は膨大だから、立ち稽古が始まったら「え？ この早替わり一体どうやるの？」って箇所が次から次に出てきそう。

水 私たち、早替わりがめちゃくちゃありますん？

那須 いっぱいあります！

新国立劇場・情報誌「ジ・アト」4月号より一部抜粋
4月末日時点で合計上演時間は約7時間30分です。